

令和5年9月29日
河内長野市立千代田小学校
校長 佐渡 芳宏

令和5年度「全国学力・学習状況調査」「すくすくウォッチ」の結果について

秋晴れの心地よい季節となりましたが、保護者の皆さまにおかれましてはご健勝のことと存じます。平素は本校の教育活動にご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、今年4月18日（火）に6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を、4月21日（金）に5・6年生を対象に「すくすくウォッチ」を実施しました。本調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証することで、児童における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。調査の結果より、子どもたちがそれぞれの学習の到達状況を知り、今後の学習の改善につなげてほしいと考えています。また、学校でも児童一人ひとりの学力を向上させるための教育活動を見直し、課題改善のための取り組みを進めていきます。

6年生 学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの概要

<国語>

概要

平均正答率は、府・全国と比較して約4ポイント下回っていた。①の漢字の書き取りの問題の正答率が特に低く、無回答率も他の問題と比べて高かった。また問題形式別に見ると、やはり記述式の問題において無回答率が高くなっていた。

特に成果が見られた問題例

①三（2）イの「くらべて」を漢字に書き直す問題では、府・全国の平均を上回っていた。また、①四の文章の種類と特徴を理解した上で適切なものを選択したり、②一の目的を意識して、中心となる語や文を見つけて正しく要約できているものを選択したりする問題の正答率も府・全国を上回っていた。

特に課題が見られた問題例

①三（1）アとウの問題の漢字の書き取り（「いがい」「きかん」）の正答率が低かった。

<算数>

概要

平均正答率は、府・全国と比較して約1ポイント上回っていた。問題形式別に見ると、選択式では平均正答率が府・全国を下回ったが、短答・記述式では府・全国を上回った。また、昨年度と比べて無回答率も低くなっており、全体的に下位層が減り中間～上位層が増えた。

特に成果が見られた問題例

「図形」領域の正答率が高く、図形を構成する要素や性質が理解できている。また、図形の問題を算数用語や式を用いて説明することもできている。全体的に無回答率も低くなっている。

特に課題が見られた問題例

①③や③②の問題のように、小数の計算になると誤答率が高くなっている。
④①、②の割合の問題は、割合の意味が理解できていないため、正答率が低かった。

<理科>

概要

全体の平均正答率は、府と比較して約6ポイント下回っていた。特に知識・技能を問う問題の正答率が、府平均より約7ポイント低くなっていた。

特に成果が見られた問題例

①④ソーラークッカーの原理（光を当てると温かくなること、光を集めやすい性質）を理解し、より早く温める方法を考えることができていた。②⑥気象衛星やアメダスの画像から、天気の変化を考察することができていた。

特に課題が見られた問題例

①①乾電池の直列・並列つなぎのちがいを、②①方位磁針の正しい使い方が理解できておらず、正答率が低かった。
②⑤天気の変化については、天気予報と結び付けて普段の生活との関わりを意識させて学習を進めることで、理解を深める必要がある。

<すくすくウォッチ（教科横断的な問題わくわく問題）>

概要

全体平均正答率は、本校68.9%、府75.6%で大阪府を約7ポイント下回った。正答数分布グラフでは、大阪府とほぼ同じ曲線を描いているが、全体的に下位層の数が多く、特に正答数が1問のみの児童の数が多かった。

特に成果が見られた問題例

イラストやチャートなどの視覚的な情報から題意を読み取って、問題を捉える力がついてきている。問題に対して考えたことや工夫したことを、図や文章で表す力がついてきている。

特に課題が見られた問題例

形式と内容が異なる複数の資料をもとにして、内容に適した資料を選択する問題の正答率が低かった。複数の資料を照らし合わせながら、書かれている内容を総合して読み取る力に課題がある。

5年生 すくすくウォッチの概要

<国語>

概要

全体平均正答率は、本校78.7%、府78.3%と僅かではあるが府を上回った。思考・判断・表現についての正答率も、本校83.6%、府82.4%と府を少し上回る結果となった。

特に成果が見られた問題例

文中の主語と述語の関係を読み取ったり、故事成語の意味を問うたり問題において、正答率が高かった。

特に課題が見られた問題例

ローマ字を正しく読んだり書いたりする問題の正答率が、顕著に低かった。他の問題に比べて、無回答率も高かった。

<算数>

概要

全体平均正答率は、本校32.7%、府37.5%と府を約5ポイント下回った。思考・判断・表現の正答率においては、本校13.0%、府11.1%と少し府を上回った。

特に成果が見られた問題例

問題を読んで立式し答えを求めるとともに、その求め方を式や言葉を用いながら説明する問題の正答率が高かった。

特に課題が見られた問題例

図形を構成する要素や性質を理解した上で解答する問題の正答率が低かった。また、全体的に無回答率も高かった。

<理科>

概要

全体平均正答率は、本校 58.4%、府 62.3%と府を約4ポイント下回った。「知識・技能」、「思考・判断・表現」の両平均正答率も、ともに約4ポイント府を下回った。

特に成果が見られた問題例

植物の生長（観察）を問う問題では、府と比べて正答率が約10ポイント高かった。

特に課題が見られた問題例

乾電池の直列・並列つなぎのちがひ、虫眼鏡の使い方が理解できておらず、正答率が低かった。また、全体的に無回答率も高かった。

<すくすくウォッチ（教科横断的な問題わくわく問題）>

概要

全体平均正答率は、本校 62.3%、府 67.1%で府を下回った。観点別にみても、全項目で正答率が府平均を下回っており、特にCの項目では、府と比較して正答率が約10ポイント下回った。

特に成果が見られた問題例

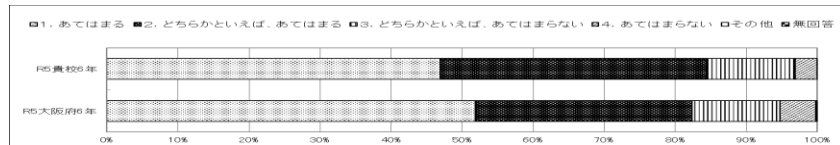
イラストやチャートなど視覚的な情報を処理することはできていた。また、問題に対して考えたことや工夫したことを図や文章で表すこともできていた。

特に課題が見られた問題例

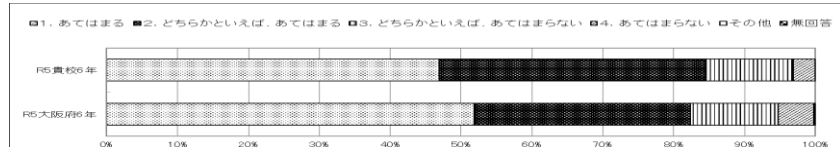
図やイラストがなく、文字や数字だけの表やグラフを読み取ったり分析したりすることに課題が見られた。

6年生 アンケート

質問番号	質問事項													無回答率
44	自分の考えをノート等書いている													33
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	その他	無回答
R5貴校6年	46.9	37.5	12.5	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
R5大阪府6年	51.9	30.5	12.4	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0



質問番号	質問事項													無回答率
44	自分の考えをノート等書いている													33
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	その他	無回答
R5貴校6年	46.9	37.5	12.5	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
R5大阪府6年	51.9	30.5	12.4	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0



概要

多くの項目において府と比べて、肯定的な意見をもっている児童が少なかった。子どもたちの頑張りや成長を褒めたり、友達の良いところを見つけたりする活動を通して、自己肯定感を高めていく必要がある。

特に成果が見られたアンケート項目例

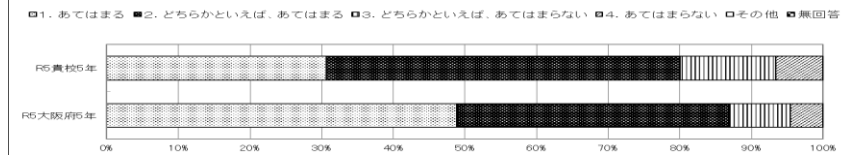
今年度、学校全体で取り組んできた自分の考えを書くことにおいて、「自分の考えをノートに書いている」と答えた児童の割合は、あてはまる・どちらかといえばあてはまるを合わせると、府を上回った。

特に課題が見られたアンケート項目例

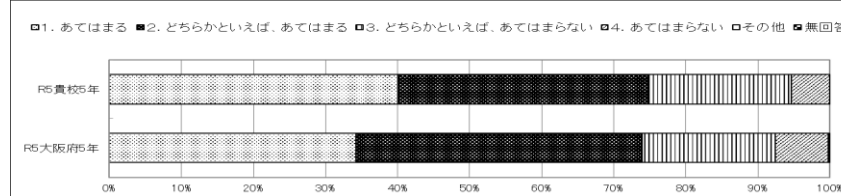
自己肯定感や粘り強さに関する質問では、肯定的な回答が府の平均を大きく下回った。

5年生 アンケート

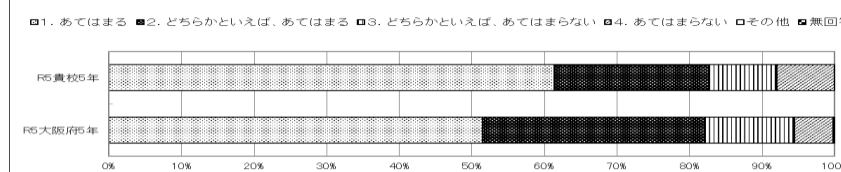
質問番号	質問事項													無回答率
1	「自分にはよいところがあると思う」													
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	その他	無回答
R5貴校5年	30.7	49.3	13.3	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
R5大阪府5年	48.9	38.0	8.6	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0



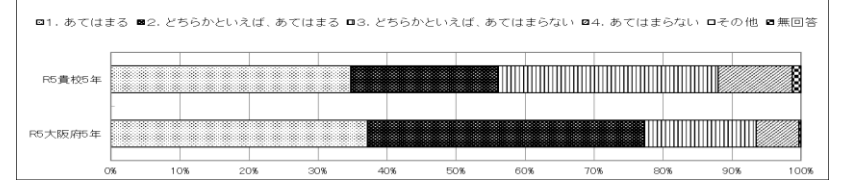
質問番号	質問事項													無回答率
40	その時間に学んだことについて、ふり返りをしている													28
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	その他	無回答
R5貴校5年	40.0	34.7	20.0	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
R5大阪府5年	34.2	39.7	18.5	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0



質問番号	質問事項													無回答率
44	自分の考えをノート等書いている													33
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	その他	無回答
R5貴校5年	61.3	21.3	9.3	8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
R5大阪府5年	51.5	30.6	12.4	5.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0



質問番号	質問事項													無回答率
50	授業で学んだことを、ふだんの生活にいかすようしている													22
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	その他	無回答
R5貴校5年	34.7	21.3	32.0	10.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
R5大阪府5年	37.1	40.1	16.2	6.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0



概要

自分の考えをもち、その考えを相手に伝える活動を大切にしてきたことで、友達の意見を聞いたり自分の考えをノートに書いたりすることができていると感じている児童が多くなってきた。また、授業のめあてを意識したり、学んだことを振り返ったりする児童が増えてきた一方、授業で学んだことを普段の生活にいかそうとしている児童は少なく、学んだことがどのような生活場面で使われているのか、学習と生活を結び付けた授業の組み立てを工夫する必要がある。

特に成果が見られたアンケート項目例

思考力・判断力・表現力の育成を推進してきた成果として、「自分の考えをノートに書く」「授業の振り返りをする」という質問事項に対する肯定的な回答が高かった。また、「あきらめない」や「一生懸命努力する」という質問に対しても、肯定的に回答する児童の割合が高かった。

特に課題が見られたアンケート項目例

「自分にはよいところがある」という自己肯定感に関する質問では、肯定的な回答が府の平均を下回った。また、「授業で学んだことを生活にいかす」という質問でも、肯定的な回答が低くなっていた。

結果を受けて

<学校が重点的に取り組んでいくこと>

自分の予想や解き方を文章や図を用いて書き、友達に自分の言葉で説明する、そして学んだことを自分でまとめる活動を大切にしていきます。また、学習を生活と結び付けて捉えらえるようにするため、授業の組み立てを見直します。

<児童のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと>

自分で考えることを大切に、「考える」習慣を身につけましょう。分からないことや難しいこともあきらめずに、粘り強く自分で考えたり調べたりしましょう。

<保護者のみなさまに協力してほしいこと>

学習面はもちろん、生活の中での小さな頑張りを見逃さず褒めてあげてください。そして、お子様の考えを受け止め、助言してあげてください。